

1. プログラム名称
名寄市立総合病院総合診療専門研修プログラム
2. 専攻医定員
1 学年あたり 2 名
3. プログラムの期間
( 3 ) 年間
4. 概要
<p>A. プログラムを展開する場や医療施設の地域背景や特長</p> <p>当院は上川北部地方より宗谷地方にまたがったの広範囲な医療圏を対象として、三次医療圏の地方センター病院に指定されている。平成 27 年 8 月からは救命救急センターが稼働している。一次救急および二次救急を行っており、複数診療科にまたがる三次救急にも対応している。総合内科外来は、臓器別ではない一般内科外来として機能しており初診患者に対応している。医療圏の診療所や病院には、初期研修医の地域研修などで協力を得ており、後期研修プログラムに組み込んだ家庭医として必要な一般内科的疾患にたいする研修が可能であり、指導医が常勤している幌加内町国民健康保険病院および浜頓別町国民健康保険病院において総合診療専門研修 I の研修が可能である。小児科を含めた一般外来の研修や往診などの在宅診療を風連国民健康保険診療所で行うことができる。内科研修は、糖尿病・代謝内科、消化器内科、循環器内科、呼吸器内科については当院にて行い、神経内科、血液内科、膠原病などは必要に応じて、市立旭川病院、旭川医療センター、旭川医科大学にて研修することが可能である。</p>
<p>B. プログラムの理念、全体的な研修目標</p> <p>患者中心の医療の提供に努め、質の高い医療提供のため「根拠に基づいた医療」を実践できる医師を育てる。地域医療の発展のため、優れた医療人となることを目的とし、また指導医として臨床教育を実施できるようになる。多職種との連携をはかり、他医療機関と連携を図り、地域住民の医療・保健・福祉に貢献することができる医師を育てる。</p>
<p>C. 研修期間を通じて行われる勉強会・カンファレンス等の教育機会</p> <p>(例) 定期的な TV 会議システムによるカンファレンス・経験省察研修録 (ポートフォリオ) 勉強会や作成指導等専攻医個人ごとに、苦手領域やニーズをもとに目標設定を行い、経験すべき症例を念頭にローテーションに組み込むこととする。内科については、消化器内科、循環器内科、呼吸器内科、糖尿病代謝内科のうち目標に合わせて選択する。</p> <p>水曜日・木曜日朝のテレビ会議システムによるカンファレンスを行っている。</p>

D. ローテーションのスケジュールと期間

(4年以上のプログラムの場合は、枠を増やして4年目以降のローテーションについても記載すること)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年目	施設名	名寄市立総合病院											
	領域												
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2年目	施設名	名寄市立総合病院											
	領域	総診Ⅱ	総診Ⅱ	総診Ⅱ	総診Ⅱ	総診Ⅱ	総診Ⅱ	小児科	小児科	小児科	救急	救急	救急
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
3年目	施設名	浜頓別国保病院	浜頓別国保病院	浜頓別国保病院	浜頓別国保病院	浜頓別国保病院	浜頓別国保病院	幌加内診療所	幌加内診療所	幌加内診療所	幌加内診療所	幌加内診療所	幌加内診療所
	領域	総診Ⅰ											
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月

特記事項 (内科、総合診療、小児科、救急については、1年目、2年目の間に研修を行うが、その順番は、希望により状況に応じ変更が可能である。)

※ 代表的な例を書いてください。募集定員全員のローテーション表は不要です。

総合診療 専門研修	総合診療専門研修Ⅰ ( 12 ) カ月		総合診療専門研修Ⅱ ( 6 ) カ月	
領域別 研修	内科 ( 12 ) カ月	小児科 ( 6 ) カ月	救急科 ( 3 ) カ月	その他 ( 3 ) カ月

※ローテーションする施設によって研修期間が異なる場合 (例えば、総合診療専門研修ⅠがA診療所なら6ヶ月、B診療所なら9ヶ月など)、これらの表はコピー&ペーストして複数作成してください。

※「総診Ⅰ」、「総診Ⅱ」、「内科」、「小児科」、「救急」、「その他」という表記で記入してください。

※整備基準にある「平成30年度からの3年間に専門研修が開始されるプログラムについては、専門研修施設群の構成についての例外を日本専門医機構において諸事情を考慮して認めることがある。」との規定を踏まえ、3年間の研修プログラムにおいても、最大6か月間の選択研修が認められます。ただし、その場合でも、各研修科の研修期間の要件を満たすことが必要です。

※「総診Ⅰ」と「総診Ⅱ」を同時に研修することはできません。また、原則として異なる医療機関での研修を実施する必要があります。

※原則として、都道府県の定めるへき地に専門研修基幹施設が所在するプログラム、あるいは研修期間中に2年以上のへき地での研修を必須にしているプログラムにおいて、ブロック制で実施できない合理的な理由がある場合に限り、小児科・救急科の研修をカリキュラム制で実施することが認められます。該当する場合は、特記事項に詳細を記入してください。

**5. 準備が必要な研修項目****地域での健康増進活動**

実施予定場所 ( 名寄市立総合病院、浜頓別国民健康保険病院、幌加内診療所 )

実施予定の活動 ( 患者教育、講演 )

実施予定時期 ※どのローテーション中に実施するか

( 全過程において適時行う )

**教育 (学生、研修医、専門職に対するもの)**

実施予定場所 ( 名寄市立総合病院、浜頓別国民健康保険病院、幌加内診療所 )

実施予定の活動 ( 屋根瓦方式の研修医指導、看護職等への教育 )

実施予定時期 ※どのローテーション中に実施するか

( 全過程において適時行う )

**研究**

実施予定場所 ( 名寄市立総合病院 )

実施予定の活動 ( 症例報告、統計など )

実施予定時期 ※どのローテーション中に実施するか

( 後期研修 1, 2 年目 )

**6. 専攻医の評価方法 (各項目を満たすとき、□を塗りつぶす (■のように))**

※形式的評価と総括的评价を研修修了認定の方法も含めて具体的に記入してください。

**形式的評価**

■研修手帳の記録及び定期的な指導医との振り返りセッションを定期的実施する (頻度: 3か月に1度 )

■経験省察研修録 (ポートフォリオ) 作成の支援を通じた指導を行う (頻度: 3か月に1度 )

■作成した経験省察研修録 (ポートフォリオ) の発表会を行う (頻度: 12ヶ月に1度 参加者の範囲: 全職員 )

■実際の業務に基づいた評価 (Workplace-based assessment) を定期的実施する (頻度: 週1回 )

■多職種による 360 度評価を各ローテーション終了時等、適宜実施する

■年に複数回、他の専攻医との間で相互評価セッションを実施する

■ローテート研修における生活面も含めた各種サポートや学習の一貫性を担保するために専攻医にメンターを配置し定期的に支援するメンタリングシステムを構築する

■メンタリングセッションは数ヶ月に一度程度を保証する

**総括的评价**

■総合診療専門研修 I・II の研修終了時には、研修手帳に専攻医が記載した経験目標に対する自己評価の確認と到達度に対する評価を総合診療専門研修指導医が実施する。

■内科ローテート研修において、症例登録・評価のため、内科領域で運用する専攻医登録評価システム (Web 版研修手帳) による登録と評価を行う。研修終了時には病歴要約評価を含め、技術・技能評価、専攻医の全体評価結果を内科指導医が確認し、総合診療プログラムの統括責任者に報告する。

■3ヶ月の小児科の研修終了時には、小児科の研修内容に関連した評価を小児科の指導医が実施する

■3ヶ月の救急科の研修終了時には、救急科の研修内容に関連した評価を救急科の指導医が実施する

■以下の基準でプログラム統括責任者はプログラム全体の修了評価を実施する

(1) 研修期間を満了し、かつ認定された研修施設で総合診療専門研修 I および II 各 6 ヶ月以上・合計 18 ヶ月以上、内科研修 12 ヶ月以上、小児科研修 3 ヶ月以上、救急科研修 3 ヶ月以上を行っており、それぞれの指導医から修了に足る評価が得られている

(2) 専攻医自身による自己評価と省察の記録、作成した経験省察研修録 (ポートフォリオ) を通じて、到達目標がカリキュラムに定められた基準に到達している

(3) 研修手帳に記録された経験目標が全てカリキュラムに定められた基準に到達している

なお、研修期間中複数回実施される、医師・看護師・事務員等の多職種による 360 度評価 (コミュニケーション、チームワーク、公益に資する職業規範) の結果も重視する

**研修修了認定の方法（総括的評価結果の判断の仕方・修了認定に関わるメンバー）**

修了判定会議のメンバー

■研修プログラム管理委員会と同一

□その他（ ）

修了判定会議の時期（ 2月または3月 ）

**7. プログラムの質の向上・維持の方法****研修プログラム管理委員会**

委員会の開催場所（ 名寄市立総合病院 ）

委員会の開催時期（ 3か月ごと ）

**専攻医からの個々の指導医に対する評価**

評価の時期（ 各研修期間終了時 ）

評価の頻度（ 内科研修は3か月ごと ）

評価結果の利用法（ 各指導医へのフィードバック ）

**研修プログラムに対する評価**

評価の時期（ 3年終了時 ）

評価の頻度（ 毎年 ）

評価結果の利用法（ プログラムの修正 ）

**8. 専門研修施設群**

基幹施設の施設要件（各項目を満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））

■総合診療専門研修Ⅰの施設基準を満たしている。

■総合診療専門研修Ⅱの施設基準を満たしている。

■大学病院で研修全体の統括組織としての役割を果たしている、あるいは適切な病院群を形成している施設である。

研修施設群全体の要件。

■総合診療専門研修Ⅰとして、のべ外来患者数 400名以上／月、のべ訪問診療件数 20件以上／月である。

■総合診療専門研修Ⅱとして、のべ外来患者数 200名／月以上、入院患者総数 20名以上／月である。

■小児科研修として、のべ外来患者数 400名以上／月である。

■救急科研修として、救急による搬送等の件数が1000件以上／年である。

地域医療・地域連携への対応

■へき地・離島、被災地、医療資源の乏しい地域での研修が1年以上である。

具体的に記載：

施設名（名寄市立総合病院） 市町村名（名寄市） 研修科目（内科、総合診療Ⅱ） 研修期間（24か月）

施設名（浜頓別国民健康保険病院） 市町村名（浜頓別町） 研修科目（総合診療Ⅰ） 研修期間（6か月）

施設名（幌加内町立幌加内診療所） 市町村名（幌加内町） 研修科目（総合診療Ⅰ） 研修期間（6か月）

■基幹施設がへき地※に所在している。

□へき地※での研修期間が2年以上である。

具体的に記載：

施設名（ ） 市町村名（ ） 研修科目（ ） 研修期間（ ）か月

施設名（ ） 市町村名（ ） 研修科目（ ） 研修期間（ ）か月

施設名（ ） 市町村名（ ） 研修科目（ ） 研修期間（ ）か月

※過疎地域自立推進特別措置法に定める過疎地域。詳細は総務省ホームページ参照

[http://www.soumu.go.jp/main\\_sosiki/jichi\\_gyousei/c-gyousei/2001/kaso/kasomain0.htm](http://www.soumu.go.jp/main_sosiki/jichi_gyousei/c-gyousei/2001/kaso/kasomain0.htm)[http://www.soumu.go.jp/main\\_content/000456268.pdf](http://www.soumu.go.jp/main_content/000456268.pdf)**9. 基幹施設**

研修施設名

名寄市立総合病院

所在地

住所 〒096-8511

電話 01654-3-3101

FAX 01654-2-0567

E-mail ny-hosp@city.nayoro.lg.jp

## 別添1 専門研修プログラムの概要と診療実績

プログラム統括責任者氏名	森田 一豊	指導医登録番号	2015-0062
プログラム統括責任者 部署・役職	総合内科 統括診療部長		
事務担当者氏名	下山 潤一		
連絡担当者連絡先	住所 〒096-8511 名寄市西7条南8丁目1番地 電話 01654-3-3101 FAX 01654-2-0567 E-mail shimoyama-junichi@city.nayoro.lg.jp		
基幹施設のカテゴリー	<input type="checkbox"/> 総合診療専門研修Ⅰの施設 <input checked="" type="checkbox"/> 総合診療専門研修Ⅱの施設 <input type="checkbox"/> 大学病院		
基幹施設の所在地	二次医療圏名 ( ) 都道府県の定めるへき地 (8. 研修施設群参照) の指定地域である → <input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ		
施設要件 (各項目を満たすとき、 <input type="checkbox"/> を塗りつぶす (■のように))			
■総合診療以外の18基本診療領域の基幹施設機能を、本プログラム統括責任者が所属する診療科あるいは部門では担当していない (プログラム基幹施設の役割を診療科・部門が兼任していない)			
■本プログラム以外の総合診療専門研修プログラムを本基幹施設は運営していない			
■プログラム統括責任者が常勤で勤務し、コーディネーターとしての役目を十分果たせるように時間的・経済的な配慮が十分なされている			
■専門研修施設群内での研修情報等の共有が円滑に行われる環境 (例えばTV会議システム等) が整備されている			
■プログラム運営を支援する事務の体制が整備されている			
■研修に必要な図書や雑誌、インターネット環境が整備されている			
※研修用の図書冊数 ( )			
※研修用の雑誌冊数 ( )			
※専攻医が利用できる文献検索や二次資料の名称 ( )			
※インターネット環境			
<input type="checkbox"/> LAN 接続のある端末			
<input checked="" type="checkbox"/> ワイヤレス			
<input type="checkbox"/> 自施設で臨床研究を実施したり、大学等の研究機関と連携した研究ネットワークに加わったりするなど研究活動が活発に行われている			
具体例 ( )			

## 総合診療専門研修 I

## 総合診療専門研修 I の施設一覧

都道府県 コード	医療機関 コード	へき地・離島、被災地 (該当する場合はチェック)	施設名	基幹施設・ 連携施設の別
		<input type="checkbox"/> へき地・離島 <input type="checkbox"/> 被災地	浜頓別町国民健康保険病院	<input type="checkbox"/> 基幹 <input checked="" type="checkbox"/> 連携
		<input type="checkbox"/> へき地・離島 <input type="checkbox"/> 被災地	幌加内町立幌加内診療所	<input type="checkbox"/> 基幹 <input checked="" type="checkbox"/> 連携
		<input type="checkbox"/> へき地・離島 <input type="checkbox"/> 被災地	名寄市風連国民健康保健診療所	<input type="checkbox"/> 基幹 <input checked="" type="checkbox"/> 連携
		<input type="checkbox"/> へき地・離島 <input type="checkbox"/> 被災地		<input type="checkbox"/> 基幹 <input type="checkbox"/> 連携

## 総合診療専門研修 I を行う施設ごとの詳細

研修施設名	浜頓別町国民健康保険病院		
診療科名	( 総合診療科 ) ※病院で研修を行う場合、研修を行う主たる診療科を記載してください。		
施設情報	<input type="checkbox"/> 診療所 <input checked="" type="checkbox"/> 病院 施設が病院のとき → 病院病床数 ( 60 ) 床 診療科病床数 ( 60 ) 床		
総合診療専門研修 I における研修期間	( 6 ) カ月		
常勤の認定指導医の配置の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 配置あり <input type="checkbox"/> 配置なし 常勤指導医なしの場合 <input type="checkbox"/> 都道府県の定めるへき地 (8. 研修施設群参照) の指定地域である その場合のサポート体制 ( )		
研修期間の分割	<input checked="" type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり 「分割あり」の場合、研修期間の分割について具体的に記入して下さい ( )		
常勤指導医氏名 1	岡田 政信	指導医登録番号	( 201-0198 )
常勤指導医氏名 2		指導医登録番号	( )
常勤指導医氏名 3		指導医登録番号	( )
要件 (各項目の全てを満たすとき、 <input type="checkbox"/> を塗りつぶす ( <input checked="" type="checkbox"/> のように))			
<b>研修の内容</b> <input checked="" type="checkbox"/> 外来診療：生活習慣病、患者教育、心理社会的問題、認知症を含めた高齢者ケアなど <input checked="" type="checkbox"/> 訪問診療：在宅ケア、介護施設との連携などを経験し在宅緩和ケアにも従事 <input checked="" type="checkbox"/> 地域包括ケア：学校医、地域保健活動などに参加			
<b>施設要件</b> 後期高齢者診療 <input checked="" type="checkbox"/> 研修診療科において後期高齢者の診療を受け入れている  学童期以下の診療 (以下のうち一つを選ぶ) <input checked="" type="checkbox"/> 研修診療科において学童期以下の患者の診療を受け入れている <input type="checkbox"/> 学童期以下の患者は受け入れていないが、施設内に研修診療科以外に小児科外来が存在し、そちらで経験を補完する <input type="checkbox"/> 学童期以下の患者は受け入れていないが、近隣の施設において経験を補完する 具体的に、どの施設でどのような頻度で補完するか ( ) <input type="checkbox"/> 学童期以下の患者は受け入れておらず、近隣の施設において経験を補完することができない 経験を補完できない理由 ( ) 学童期以下の患者の診療を経験するための工夫 ( )			
<input checked="" type="checkbox"/> アクセスの担保：24 時間体制で医療機関が患者の健康問題に対応する体制をとっている 具体的な体制と方略 ( 日勤の時間帯および夜間も外来患者、入院患者の診療にあたっている。			
<input checked="" type="checkbox"/> 継続的なケア：一定の患者に対して研修期間中の継続的な診療を提供する 具体的な体制と方略 ( 町内在住の患者にたいしえは町内唯一の医療機関であるため、他院への紹介等の必要がなければ			

別添1 専門研修プログラムの概要と診療実績

継続して診療を行っている )
<p>■包括的なケア：一施設で急性期、慢性期、予防・健康増進、緩和ケアなどを幅広く担当          具体的な体制と方略（町内唯一の医療機関であることから、急性期の診断、重症患者の他院への紹介、他院での治療後の患者の継続診療、慢性期の患者の診療、町内在住者への、予防、健康増進に関する教育、終末期の緩和ケア等も 当院で行っている。）</p>
<p>■多様なサービスとの連携：必要な医療機関、介護・福祉機関などと適切に連携する          具体的な体制と方略（ケアマネージャー、認知症サポート医の資格を有していることから、地域の特別養護老人ホーム、グループホーム、ケアハウスの管理医を兼務しており、町内の福祉政策にも関与している。また、高度の医療を必要とする患者に関しては、名寄市立総合病院とのインターネットを介しての情報共有を行うことにより、適切な指導を頂いており、適時、同院への患者依頼を行っている。）</p>
<p>■家族志向型ケア：様々な年齢層を含む同一家族の構成員が受診する          具体的な状況（町内唯一の医療機関として、町内の住民の家族構成、持病、生活状態等の把握をしている。）</p>
<p>■地域志向型ケア：受診していない地域住民への集団アプローチを計画的に実施する          具体的な内容と方法（町内の保健福祉課と連携し、町民の健康増進、予防に関する啓もう活動を行っている。）</p>
<p>■在宅医療：訪問診療の体制をとっている。患者の急変、緩和ケアに対応している          それぞれの概ねの頻度（1回/2週の頻度で訪問診療を行っており、必要に応じて頻回に訪問を行っている。また、家族の希望により、自宅での緩和ケア、看取りをサポートしている。）</p>
診療実績（各項目を満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））
<p>□のべ外来患者数 400名以上/月          □上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している          具体的な体制と方略（ )</p>
<p>□のべ訪問診療数 20件以上/月          □上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している          具体的な体制と方略（ )</p>
研修中に定期的に行う教育
<p>当該施設で行う勉強会・カンファレンス・カルテチェック等の教育機会          （ カルテチェックや症例カンファレンスは毎日 )          他の施設で行う教育・研修機会          （ )</p>
他のプログラムに参加される場合は以下の欄に記載すること
<p>本プログラム以外の参加プログラム数 ( )          プログラム名 ( )          プログラム名 ( )          プログラム名 ( )</p>

※研修施設が2箇所以上にわたる場合、上記内容をコピー&ペーストして記載すること

## 総合診療専門研修 I を行う施設ごとの詳細

研修施設名	幌加内町立幌加内診療所		
診療科名	( 内科、小児科 ) ※病院で研修を行う場合、研修を行う主たる診療科を記載してください。		
施設情報	<input checked="" type="checkbox"/> 診療所 <input type="checkbox"/> 病院 施設が病院のとき → 病院病床数 (    ) 床    診療科病床数 (    ) 床		
総合診療専門研修 I における研修期間	( 6 ) カ月		
常勤の認定指導医の配置の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 配置あり <input type="checkbox"/> 配置なし 常勤指導医なしの場合 <input type="checkbox"/> 都道府県の定めるべき地 (8. 研修施設群参照) の指定地域である その場合のサポート体制 (    )		
研修期間の分割	<input checked="" type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり 「分割あり」の場合、研修期間の分割について具体的に記入して下さい (    )		
常勤指導医氏名 1	森崎 龍郎	指導医登録番号	( 第 2014-0007 号 )
常勤指導医氏名 2		指導医登録番号	(    )
常勤指導医氏名 3		指導医登録番号	(    )
要件 (各項目の全てを満たすとき、 <input type="checkbox"/> を塗りつぶす ( <input checked="" type="checkbox"/> のように))			
<b>研修の内容</b> <input checked="" type="checkbox"/> 外来診療：生活習慣病、患者教育、心理社会的問題、認知症を含めた高齢者ケアなど <input checked="" type="checkbox"/> 訪問診療：在宅ケア、介護施設との連携などを経験し在宅緩和ケアにも従事 <input checked="" type="checkbox"/> 地域包括ケア：学校医、地域保健活動などに参加			
<b>施設要件</b> 後期高齢者診療 <input checked="" type="checkbox"/> 研修診療科において後期高齢者の診療を受け入れている  学童期以下の診療 (以下のうち一つを選ぶ) <input checked="" type="checkbox"/> 研修診療科において学童期以下の患者の診療を受け入れている <input type="checkbox"/> 学童期以下の患者は受け入れていないが、施設内に研修診療科以外に小児科外来が存在し、そちらで経験を補完する <input type="checkbox"/> 学童期以下の患者は受け入れていないが、近隣の施設において経験を補完する 具体的に、どの施設でどのような頻度で補完するか (    ) <input type="checkbox"/> 学童期以下の患者は受け入れておらず、近隣の施設において経験を補完することができない 経験を補完できない理由 (    ) 学童期以下の患者の診療を経験するための工夫 (    )			
<input checked="" type="checkbox"/> アクセスの担保：24 時間体制で医療機関が患者の健康問題に対応する体制をとっている 具体的な体制と方略 ( 診療時間外は留守番電話で診療所の携帯電話番号を通知し対応している。 )			
<input checked="" type="checkbox"/> 継続的なケア：一定の患者に対して研修期間中の継続的な診療を提供する 具体的な体制と方略 ( 完全予約制ではないが外来担当医枠を固定しているため、同じ医師が主治医として継続的な診療を提供している。 )			
<input checked="" type="checkbox"/> 包括的なケア：一施設で急性期、慢性期、予防・健康増進、緩和ケアなどを幅広く担当 具体的な体制と方略 ( 町立診療所として、老若男女問わずすべての町民に急性期・慢性期、緩和ケアなどあらゆる医療を提供している。当診療所医師が予防接種、乳幼児健診、保育園・小学校～高校までの学校健診、特定健診、町内の事業者健診、人間ドック等すべての事業を実施している。 )			
<input checked="" type="checkbox"/> 多様なサービスとの連携：必要な医療機関、介護・福祉機関などと適切に連携する 具体的な体制と方略 ( 急性期医療・専門医療については、主として旭川市の総合病院と連携し相互に紹介している。当診療所医師が町保健福祉総合センター長を兼任しており、各種会議を通して主体的に連携を調整している。 )			
<input checked="" type="checkbox"/> 家族志向型ケア：様々な年齢層を含む同一家族の構成員が受診する 具体的な状況 ( 日常的に親子、夫婦などが受診しており、診療に際しては家族内の問題など家族情報の収集を意識的に行い、診療後のふりかえりで外来スタッフと情報共有を行なっている。 )			
<input checked="" type="checkbox"/> 地域志向型ケア：受診していない地域住民への集団アプローチを計画的に実施する 具体的な内容と方法 ( 当診療所医師が予防接種、乳幼児健診、保育園・小学校～高校までの学校健診、特定健診、町内			

別添1 専門研修プログラムの概要と診療実績

<p>の事業者健診、人間ドック、産業医活動を実施しており、常に行政・学校・事業者と連携している。)</p>
<p>■在宅医療：訪問診療の体制をとっている。患者の急変、緩和ケアに対応している それぞれの概ねの頻度（訪問診療は約10件、月1~2回行なっている。在宅患者の急変時は周辺の二次医療機関へ紹介している。緩和ケアについては条件があれば在宅看取りも行っている。）</p>
<p>診療実績（各項目を満たすとき、口を塗りつぶす（■のように））</p>
<p>■のべ外来患者数 400名以上／月 口上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している 具体的な体制と方略（ )</p>
<p>口のべ訪問診療数 20件以上／月 ■上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している 具体的な体制と方略（特別養護老人ホームの嘱託医を行っている。）</p>
<p>研修中に定期的に行う教育</p>
<p>当該施設で行う勉強会・カンファレンス・カルテチェック等の教育機会 （カルテチェックや症例カンファレンスは毎日 ) 他の施設で行う教育・研修機会 （ )</p>
<p>他のプログラムに参加される場合は以下の欄に記載すること</p>
<p>本プログラム以外の参加プログラム数 ( ) プログラム名（総合診療専門プログラム（松前塾—ルーラルジェネラリストへの道 ) プログラム名 ( ) プログラム名 ( )</p>

※研修施設が2箇所以上にわたる場合、上記内容をコピー&ペーストして記載すること

研修施設名	名寄市風連国民健康保険診療所		
診療科名	( <b>総合診療科</b> ) ※病院で研修を行う場合、研修を行う主たる診療科を記載してください。		
施設情報	<input checked="" type="checkbox"/> 診療所 <input type="checkbox"/> 病院 施設が病院のとき → 病院病床数 (    ) 床    診療科病床数 ( 6 ) 床		
総合診療専門研修 I における研修期間	( 6 ) カ月		
常勤の認定指導医の配置の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 配置あり <input type="checkbox"/> 配置なし 常勤指導医なしの場合 <input type="checkbox"/> 都道府県の定めるべき地 (8. 研修施設群参照) の指定地域である その場合のサポート体制 (    )		
研修期間の分割	<input checked="" type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり 「分割あり」の場合、研修期間の分割について具体的に記入して下さい (    )		
常勤指導医氏名 1	松田 好人	指導医登録番号	( 申請中 )
常勤指導医氏名 2		指導医登録番号	(    )
常勤指導医氏名 3		指導医登録番号	(    )
要件 (各項目の全てを満たすとき、 <input type="checkbox"/> を塗りつぶす ( <input checked="" type="checkbox"/> のように))			
<b>研修の内容</b> <input checked="" type="checkbox"/> 外来診療：生活習慣病、患者教育、心理社会的問題、認知症を含めた高齢者ケアなど <input checked="" type="checkbox"/> 訪問診療：在宅ケア、介護施設との連携などを経験し在宅緩和ケアにも従事 <input checked="" type="checkbox"/> 地域包括ケア：学校医、地域保健活動などに参加			
<b>施設要件</b> 後期高齢者診療 <input checked="" type="checkbox"/> 研修診療科において後期高齢者の診療を受け入れている  学童期以下の診療 (以下のうち一つを選ぶ) <input checked="" type="checkbox"/> 研修診療科において学童期以下の患者の診療を受け入れている <input type="checkbox"/> 学童期以下の患者は受け入れていないが、施設内に研修診療科以外に小児科外来が存在し、そちらで経験を補完する <input type="checkbox"/> 学童期以下の患者は受け入れていないが、近隣の施設において経験を補完する 具体的に、どの施設でどのような頻度で補完するか (    ) <input type="checkbox"/> 学童期以下の患者は受け入れておらず、近隣の施設において経験を補完することができない 経験を補完できない理由 (    ) 学童期以下の患者の診療を経験するための工夫 (    )			
<input checked="" type="checkbox"/> アクセスの担保：24 時間体制で医療機関が患者の健康問題に対応する体制をとっている 具体的な体制と方略 ( 日勤の時間帯および夜間も外来患者、入院患者の診療にあたっている。 )			
<input checked="" type="checkbox"/> 継続的なケア：一定の患者に対して研修期間中の継続的な診療を提供する 具体的な体制と方略 ( 町内在住の患者にたいしえは町内唯一の医療機関であるため、他院への紹介等の必要がなければ継続して診療を行っている )			
<input checked="" type="checkbox"/> 包括的なケア：一施設で急性期、慢性期、予防・健康増進、緩和ケアなどを幅広く担当 具体的な体制と方略 ( 町内唯一の医療機関であることから、急性期の診断、重症患者の他院への紹介、他院での治療後の患者の継続診療、慢性期の患者の診療、町内在住者への、予防、健康増進に関する教育、終末期の緩和ケア等も 当院で行っている。 )			
<input checked="" type="checkbox"/> 多様なサービスとの連携：必要な医療機関、介護・福祉機関などと適切に連携する 具体的な体制と方略 ( ケアマネージャー、認知症サポート医の資格を有していることから、地域の特別養護老人ホーム、グループホーム、ケアハウスの管理医を兼務しており、町内の福祉政策にも関与している。また、高度の医療を必要とする患者に関しては、名寄市立総合病院とのインターネットを介しての情報共有を行うことにより、適切な指導を頂いており、適時、同院への患者依頼を行っている。 )			
<input checked="" type="checkbox"/> 家族志向型ケア：様々な年齢層を含む同一家族の構成員が受診する 具体的な状況 ( 町内唯一の医療機関として、町内の住民の家族構成、持病、生活状態等の把握をしている。 )			
<input checked="" type="checkbox"/> 地域志向型ケア：受診していない地域住民への集団アプローチを計画的に実施する 具体的な内容と方法 ( 町内の保健福祉課と連携し、町民の健康増進、予防に関する啓もう活動を行っている。 )			

<p>■在宅医療：訪問診療の体制をとっている。患者の急変、緩和ケアに対応している それぞれの概ねの頻度（1回/2週の頻度で訪問診療を行っており、必要に応じて頻回に訪問を行っている。また、家族の希望により、自宅での緩和ケア、看取りをサポートしている。）</p>
<p>診療実績（各項目を満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））</p>
<p>□のべ外来患者数 400名以上/月 □上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している 具体的な体制と方略（ ）</p>
<p>□のべ訪問診療数 20件以上/月 □上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している 具体的な体制と方略（ ）</p>
<p>研修中に定期的に行う教育</p>
<p>当該施設で行う勉強会・カンファレンス・カルテチェック等の教育機会 （カルテチェックや症例カンファレンスは毎日 ） 他の施設で行う教育・研修機会 （ ）</p>
<p>他のプログラムに参加される場合は以下の欄を記載すること</p>
<p>本プログラム以外の参加プログラム数（ ） プログラム名（ ） プログラム名（ ） プログラム名（ ）</p>

※研修施設が2箇所以上にわたる場合、上記内容をコピー&ペーストして記載すること

## 総合診療専門研修Ⅱ

### 総合診療専門研修Ⅱの施設一覧

都道府県 コード	医療機関 コード	へき地・離島、被災地 (該当する場合はチェック)	施設名	基幹施設・ 連携施設の別
		<input type="checkbox"/> へき地・離島 <input type="checkbox"/> 被災地	名寄市立総合病院	■基幹 <input type="checkbox"/> 連携
		<input type="checkbox"/> へき地・離島 <input type="checkbox"/> 被災地	市立旭川病院	<input type="checkbox"/> 基幹 ■連携
		<input type="checkbox"/> へき地・離島 <input type="checkbox"/> 被災地	旭川医療センター	<input type="checkbox"/> 基幹 ■連携
		<input type="checkbox"/> へき地・離島 <input type="checkbox"/> 被災地	旭川医科大学病院	<input type="checkbox"/> 基幹 ■連携

### 総合診療専門研修Ⅱを行う施設ごとの詳細

研修施設名	名寄市立総合病院		
診療科名	（ 総合内科 ） ※病院で研修を行う場合、研修を行う主たる診療科を記載してください。		
施設情報	病院病床数（300）床 診療科病床数（10）床		
総合診療専門研修Ⅱにおける研修期間	（6）カ月		
常勤指導医の有無	<input type="checkbox"/> なし ■あり 常勤指導医なしの場合 <input type="checkbox"/> 都道府県の定めるへき地（8. 研修施設群参照）の指定地域である その場合のサポート体制（ ）		
研修期間の分割	■なし <input type="checkbox"/> あり 「分割あり」の場合、研修期間の分割について具体的に記入して下さい （ ）		
常勤指導医氏名1	森田 一豊	指導医登録番号	（2015 - 0062）
常勤指導医氏名2		指導医登録番号	（ ）

常勤指導医氏名 3		指導医登録番号	( )
要件（各項目の全てを満たすとき、口を塗りつぶす（■のように））			
<b>研修の内容</b>			
■病棟診療：病棟は臓器別ではない。主として成人・高齢入院患者や複数の健康問題（心理・社会・倫理的問題を含む）を抱える患者の包括ケア、緩和ケアなどを経験する。			
■外来診療：臓器別ではない外来で、救急も含む初診を数多く経験し、複数の健康問題をもつ患者への包括的ケアを経験する			
<b>施設要件</b>			
■一般病床ないしは地域包括ケア病床を有する			
■救急医療を提供している			
<b>病棟診療</b> ：以下の全てを行っていること			
■高齢者（特に虚弱）ケア 具体的な体制と方略（外来または救急にて来院した虚弱老人を入院させ治療および在宅または療養施設などの社会資源を活用し対応する。）			
■複数の健康問題を抱える患者への対応 具体的な体制と方略（ポリファーマシーになりがちなため、必要に応じて内服薬の調整を行う）			
■必要に応じた専門医との連携 具体的な体制と方略（多くの専門領域の科があるため、直接相談するなどして治療方針を決定する。）			
■心理・社会・倫理的複雑事例への対応 具体的な体制と方略（チームカンファレンスを行い、治療方針を決定する。精神科との連携）			
■癌・非癌患者の緩和ケア 具体的な体制と方略（適切な麻薬の使用や非薬物的な対話などにより患者の不安を軽減し安楽な精神状態を保つ）			
■退院支援と地域連携機能の提供 具体的な体制と方略（退院前の訪問看護師を含んだチームカンファレンスを通じて連続性のある医療を継続する。）			
■在宅患者の入院時対応 具体的な体制（他の診療所が行っている在宅患者の後方病院を行っており、在宅患者の入院時対応は行っている）			
<b>外来診療</b> ：以下の診療全てを行っていること			
■救急外来及び初診外来 具体的な体制と方略（救急センターがあり、救急外来の経験が可能。初診外来ももともと初期研修医の外来研修として行っており、後期研修においても経験することになる。）			
■臓器別ではない外来で幅広く多くの初診患者 具体的な体制と方略（初診外来はもともと臓器別ではなく、外来研修の場として機能している。）			
■よくある症候と疾患 具体的な体制と方略（一般的な感冒や腹痛、原因の不明な発熱など幅広く対応している。そのような患者のなかには自己免疫疾患を初めて診断される場合や内分泌疾患を診断される場合もある。）			
■臨床推論・EBM 具体的な体制と方略（外来患者についてカンファレンスを行い、対応が適切であったか、他の対応はなかったかなど検討する。）			
■複数の健康問題への包括的なケア 具体的な体制と方略（虚弱老人も含む複数の健康問題について内服薬の整理や、地域の社会資源の活用を提案できるように調整する）			
■診断困難患者への対応 具体的な体制と方略（外来カンファレンスにて検討し、診断困難患者については入院して精密検査を行ったり、必要に応じて大学病院などのより高次な病院への診察依頼を行う。）			
診療実績（各項目を満たすとき、口を塗りつぶす（■のように））			
□当該診療科におけるのべ外来患者数 200名以上／月			
□上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している 具体的な体制と方略（ )			
□当該診療科における入院患者総数 20件以上／月			
■上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している 具体的な体制と方略（救急外来をとおしての入院を受け入れています。総合内科からの直接入院だけでなく他院からの紹介入院も受け入れています。）			
<b>研修中に定期的に行う教育</b>			
当該施設で行う勉強会・カンファレンス・カルテチェック等の教育機会 （カルテチェックは毎日。カンファレンスは毎日、勉強会は病院の抄読会を利用）			
他の施設で行う教育・研修機会 （ )			
他のプログラムに参加される場合は以下の欄に記載すること			

本プログラム以外の参加プログラム数 ( )  
 プログラム名 ( )  
 プログラム名 ( )  
 プログラム名 ( )

※研修施設が2箇所以上にわたる場合、上記内容をコピー&ペーストして記載すること

領域別研修：内科			
研修施設名	名寄市立総合病院	都道府県コード	医療機関コード
領域別研修（内科）における研修期間	(12) カ月		
指導医氏名	森田 一豊		
有する認定医・専門医資格 <small>※内科に関するもの</small>	循環器専門医、呼吸器専門医、日本医師会認定産業医		
要件（各項目を満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））			
<b>研修の内容</b>			
■病棟診療：病棟での主治医として主に内科疾患の急性期患者の診療を幅広く経験する			
<b>施設要件</b>			
□内科専門研修プログラムに参加している <input type="checkbox"/> 基幹施設 <input checked="" type="checkbox"/> 連携施設 <input type="checkbox"/> 特別連携施設 <input checked="" type="checkbox"/> 内科学会の認定する指導医が常勤で在籍しており、J-OSLER（専攻医登録評価システム）を使用できる			
診療実績（各項目を満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））			
□当該診療科における入院患者総数 40件以上／月 <input type="checkbox"/> 上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している 具体的な体制と方略 ( )			
他のプログラムに参加される場合は以下の欄に記載すること			
本プログラム以外の参加プログラム数 ( ) プログラム名 ( ) プログラム名 ( ) プログラム名 ( )			

※研修施設が2箇所以上にわたる場合、上記内容をコピー&ペーストして記載すること

領域別研修：内科			
研修施設名	市立旭川病院	都道府県コード	医療機関コード 29 1099 7
領域別研修（内科）における研修期間	(2) カ月		
指導医氏名	柿木 康孝		
有する認定医・専門医資格 <small>※内科に関するもの</small>	日本内科学会総合内科専門医、日本血液学会専門医・指導医、 日本輸血・細胞治療学会認定医、日本造血細胞移植学会認定医		
要件（各項目を満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））			
<b>研修の内容</b>			
■病棟診療：病棟での主治医として主に内科疾患の急性期患者の診療を幅広く経験する			
<b>施設要件</b>			
■内科専門研修プログラムに参加している <input checked="" type="checkbox"/> 基幹施設 <input checked="" type="checkbox"/> 連携施設 <input type="checkbox"/> 特別連携施設 <input checked="" type="checkbox"/> 内科学会の認定する指導医が常勤で在籍しており、J-OSLER（専攻医登録評価システム）を使用できる			
診療実績（各項目を満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））			
■当該診療科における入院患者総数 30件以上／月 <input type="checkbox"/> 上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している 具体的な体制と方略 ( )			
他のプログラムに参加される場合は以下の欄に記載すること			

別添1 専門研修プログラムの概要と診療実績

本プログラム以外の参加プログラム数 ( 1 )
プログラム名 ( 道立羽幌病院総合診療専門研修プログラム )
プログラム名 ( )
プログラム名 ( )

領域別研修：内科			
研修施設名	旭川医療センター	都道府県コード 01	医療機関コード 80.1012.3
領域別研修（内科）における研修期間		(2) カ月	
指導医氏名	木村 隆		
有する認定医・専門医資格 <small>※内科に関するもの</small>	日本内科学会認定内科医・指導医、日本神経学会専門医・指導医、日本認知症学会専門医		
要件（各項目を満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））			
<b>研修の内容</b> ■病棟診療：病棟での主治医として主に内科疾患の急性期患者の診療を幅広く経験する			
<b>施設要件</b> □内科専門研修プログラムに参加している □基幹施設 ■連携施設 □特別連携施設 ■内科学会の認定する指導医が常勤で在籍しており、J-OSLER（専攻医登録評価システム）を使用できる			
診療実績（各項目を満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））			
■当該診療科における入院患者総数 40 件以上／月 □上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している 具体的な体制と方略（ )			
他のプログラムに参加される場合は以下の欄に記載すること			
本プログラム以外の参加プログラム数 ( 1 ) プログラム名 ( 旭川医療センター総合診療専門研修プログラム ) プログラム名 ( ) プログラム名 ( )			

領域別研修：内科			
研修施設名	旭川医科大学病院	都道府県コード 01	医療機関コード 8010214
領域別研修（内科）における研修期間		(2～4) カ月	
指導医氏名	佐藤 伸之		
有する認定医・専門医資格 <small>※内科に関するもの</small>	日本内科学会認定内科医、総合内科専門医・指導医、日本循環器学会専門医、日本不整脈心電学会不整脈専門医、		
要件（各項目を満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））			
<b>研修の内容</b> ■病棟診療：病棟での主治医として主に内科疾患の急性期患者の診療を幅広く経験する			
<b>施設要件</b> □内科専門研修プログラムに参加している □基幹施設 ■連携施設 □特別連携施設 ■内科学会の認定する指導医が常勤で在籍しており、J-OSLER（専攻医登録評価システム）を使用できる			
診療実績（各項目を満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））			
■当該診療科における入院患者総数 15,000 件以上／月 □上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している 具体的な体制と方略（ )			
他のプログラムに参加される場合は以下の欄に記載すること			

本プログラム以外の参加プログラム数 ( )
プログラム名 ( 旭川医科大学病院総合診療専門医研修プログラム )
プログラム名 ( )
プログラム名 ( )

領域別研修：小児科			
研修施設名	名寄市立総合病院	都道府県コード	医療機関コード
領域別研修（小児科）における研修期間		（6）カ月	
指導医氏名	平野 至規	有する専門医資格（小児科専門医） ※小児科に関するもの	
要件（各項目を満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））			
<b>研修の内容</b>			
■外来診療：指導医の下で初診を数多く経験し、小児特有の疾患を含む日常的に遭遇する症候や疾患の対応を経験する			
■救急診療：指導医の監督下で積極的に救急外来を担当し、軽症、1次救急を中心に経験する			
■病棟診療：日常的に遭遇する疾患の入院診療を担当し、外来・救急から入院に至る流れと基本的な入院ケアを学ぶ			
<b>施設要件</b>			
■小児領域における基本能力（診断学、治療学、手技等）が修得できる			
■小児科常勤医がいる。（7）名			
診療実績（各項目を満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））			
■当該診療科におけるのべ外来患者数 400名以上／月			
□上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している			
具体的な体制と方略（ )			
他のプログラムに参加される場合は以下の欄に記載すること			
本プログラム以外の参加プログラム数 ( )			
プログラム名 ( )			
プログラム名 ( )			
プログラム名 ( )			

※研修施設が2箇所以上にわたる場合、上記内容をコピー&ペーストして記載すること

※小児科研修をカリキュラム制での実施を希望する場合は、その条件（2ページ「4 概要 D. ローテーションのスケジュールと期間」参照）を確認したうえで、具体的にどのような研修を行うのか、別途説明した文書を添付してください。（A4で1枚程度、書式自由）文書には、プログラム制では実施できない合理的な理由と、プログラム制と同等の研修経験・指導の質を担保するための工夫に関する記載も含めるようにしてください。

領域別研修：救急科			
研修施設名	名寄市立総合病院	都道府県コード	医療機関コード
指導医氏名	西浦 猛	有する専門医資格（救急専門医）	専従する部署（救急科）
■研修期間（3）カ月			
要件（各項目を満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））			
<b>研修の内容</b>			
■救急診療：外科系・小児を含む全科の主に軽症から中等症救急疾患の診療を経験する			
<b>施設要件</b> （下記のいずれかを満たす）			
■救命救急センターもしくは救急科専門医指定施設			
■救急科専門医等が救急担当として専従する一定の規模の医療機関（救急搬送件数が年に1000件以上）			
診療実績（各項目を満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））			
■当該診療科におけるのべ救急搬送件数 1000件以上／年			
□上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している			
具体的な体制と方略（ )			
他のプログラムに参加される場合は以下の欄に記載すること			
本プログラム以外の参加プログラム数 ( )			
プログラム名 ( )			
プログラム名 ( )			

プログラム名 ( )
------------

※研修施設が2箇所以上にわたる場合、上記内容をコピー&ペーストして記載すること

※救急科研修をカリキュラム制での実施を希望する場合は、その条件(2ページ「4 概要 D. ローテーションのスケジュールと期間」参照)を確認したうえで、具体的にどのような研修を行うのか、別途説明した文書を添付してください。(A4で1枚程度、書式自由)文書には、プログラム制では実施できない合理的な理由と、プログラム制と同等の研修経験・指導の質を担保するための工夫に関する記載も含めるようにしてください。

その他の領域別診療科

<b>領域別研修： 整形外科</b>			
研修施設名	名寄市立総合病院	都道府県コード	医療機関コード
指導医氏名	濱田 修	有する専門医資格(整形外科専門医)	専従する部署(整形外科)
□研修期間 ( 1 ) カ月			
要件(各項目を満たすとき、□を塗りつぶす(■のように))			
<b>研修の内容</b>			
■総合診療専門研修の経験目標を達成するのに有用な診療を経験する			
<b>施設要件</b> (下記のいずれかを満たす)			
■(整形外科)領域における基本能力(診断学、治療学、手技等)が修得できる			
■( )科常勤医がいる。( 3 )名			

※その他の診療科が2箇所以上にわたる場合、上記内容をコピー&ペーストして記載すること

その他の領域別診療科

<b>領域別研修： 耳鼻咽喉科</b>			
研修施設名	名寄市立総合病院	都道府県コード	医療機関コード
指導医氏名	斎藤 滋	有する専門医資格(耳鼻咽喉科専門医)	専従する部署( )
□研修期間 ( 1 ) カ月			
要件(各項目を満たすとき、□を塗りつぶす(■のように))			
<b>研修の内容</b>			
■総合診療専門研修の経験目標を達成するのに有用な診療を経験する			
<b>施設要件</b> (下記のいずれかを満たす)			
■( )領域における基本能力(診断学、治療学、手技等)が修得できる			
■( )科常勤医がいる。( 2 )名			

※その他の診療科が2箇所以上にわたる場合、上記内容をコピー&ペーストして記載すること

その他の領域別診療科

<b>領域別研修： 泌尿器科</b>			
研修施設名	名寄市立総合病院	都道府県コード	医療機関コード
指導医氏名	山下 孝典	有する専門医資格(泌尿器科専門医)	専従する部署(泌尿器科)
□研修期間 ( 1 ) カ月			
要件(各項目を満たすとき、□を塗りつぶす(■のように))			
<b>研修の内容</b>			
■総合診療専門研修の経験目標を達成するのに有用な診療を経験する			
<b>施設要件</b> (下記のいずれかを満たす)			
■( )領域における基本能力(診断学、治療学、手技等)が修得できる			
■( )科常勤医がいる。( 2 )名			

※その他の診療科が2箇所以上にわたる場合、上記内容をコピー&ペーストして記載すること

## その他の領域別診療科

<b>領域別研修： 皮膚科</b>			
研修施設名	名寄市立総合病院	都道府県コード	医療機関コード
指導医氏名	大石 泰史	有する専門医資格（皮膚科専門医）	専従する部署（皮膚科）
□研修期間（ 1 ）カ月			
要件（各項目を満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））			
<b>研修の内容</b>			
■総合診療専門研修の経験目標を達成するのに有用な診療を経験する			
<b>施設要件</b> （下記のいずれかを満たす）			
■（ ）領域における基本能力（診断学、治療学、手技等）が修得できる			
■（ ）科常勤医がいる。（ 2 ）名			

※その他の診療科が2箇所以上にわたる場合、上記内容をコピー&amp;ペーストして記載すること

## その他の領域別診療科

<b>領域別研修： 産婦人科</b>			
研修施設名	名寄市立総合病院	都道府県コード	医療機関コード
指導医氏名	北村 晋逸	有する専門医資格（ ）	専従する部署（ ）
□研修期間（ ）カ月			
要件（各項目を満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））			
<b>研修の内容</b>			
■総合診療専門研修の経験目標を達成するのに有用な診療を経験する			
<b>施設要件</b> （下記のいずれかを満たす）			
■（ ）領域における基本能力（診断学、治療学、手技等）が修得できる			
■（ ）科常勤医がいる。（ 5 ）名			

※その他の診療科が2箇所以上にわたる場合、上記内容をコピー&amp;ペーストして記載すること

## その他の領域別診療科

<b>領域別研修： 精神科</b>			
研修施設名	名寄市立総合病院	都道府県コード	医療機関コード
指導医氏名	野口 剛志	有する専門医資格（精神科専門医）	専従する部署（精神科）
□研修期間（ 1 ）カ月			
要件（各項目を満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））			
<b>研修の内容</b>			
■総合診療専門研修の経験目標を達成するのに有用な診療を経験する			
<b>施設要件</b> （下記のいずれかを満たす）			
■（ ）領域における基本能力（診断学、治療学、手技等）が修得できる			
■（ ）科常勤医がいる。（ 2 ）名			

※その他の診療科が2箇所以上にわたる場合、上記内容をコピー&amp;ペーストして記載すること

## その他の領域別診療科

<b>領域別研修： 眼科</b>			
研修施設名	名寄市立総合病院	都道府県コード	医療機関コード
指導医氏名	南 喜郎	有する専門医資格（眼科専門医）	専従する部署（眼科）
□研修期間（ 1 ）カ月			
要件（各項目を満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））			
<b>研修の内容</b>			
■総合診療専門研修の経験目標を達成するのに有用な診療を経験する			
<b>施設要件</b> （下記のいずれかを満たす）			
■（ ）領域における基本能力（診断学、治療学、手技等）が修得できる			
■（ ）科常勤医がいる。（ 1 ）名			

※その他の診療科が2箇所にわたる場合、上記内容をコピー&amp;ペーストして記載すること

## その他の領域別診療科

<b>領域別研修： 心臓血管外科</b>			
研修施設名	名寄市立総合病院	都道府県コード	医療機関コード
指導医氏名	眞岸 克明	有する専門医資格 （心臓血管外科専門医）	専従する部署（心臓血管外科）
□研修期間（ 1 ）カ月			
要件（各項目を満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））			
<b>研修の内容</b>			
■総合診療専門研修の経験目標を達成するのに有用な診療を経験する			
<b>施設要件</b> （下記のいずれかを満たす）			
■（ ）領域における基本能力（診断学、治療学、手技等）が修得できる			
■（ ）科常勤医がいる。（ 3 ）名			

※その他の診療科が2箇所にわたる場合、上記内容をコピー&amp;ペーストして記載すること

## その他の領域別診療科

<b>領域別研修： 脳神経外科</b>			
研修施設名	名寄市立総合病院	都道府県コード	医療機関コード
指導医氏名	徳光 直樹	有する専門医資格（脳神経外科専門医）	専従する部署（脳神経外科）
□研修期間（ 1 ）カ月			
要件（各項目を満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））			
<b>研修の内容</b>			
■総合診療専門研修の経験目標を達成するのに有用な診療を経験する			
<b>施設要件</b> （下記のいずれかを満たす）			
■（ ）領域における基本能力（診断学、治療学、手技等）が修得できる			
■（ ）科常勤医がいる。（ 3 ）名			

※その他の診療科が2箇所にわたる場合、上記内容をコピー&amp;ペーストして記載すること